

広島 第3回
「『親の力』をまなびあう学習プログラム」
ファシリテーター・ステップアップ研修

家庭教育を支える地域力
～保護者をコミュニティでどう支えるか～

武田信子

こんにちは。
ご参加ありがとうございます
ございます♡

本日の目的

- 家庭教育支援にかかる講義や演習を通して
「親の力を学び合う学習プログラム」のファシリテーターとして
 - ① 家庭教育に関する知識 を深め、 ← 講義
 - ② 講座を進行する技術（や資質） の向上を図り、 ← 種明かし
 - ③ 活動への意欲を高める とともに、 ← 仲間づくり
 - ④ 情報交流 を通じて、
 - ⑤ ファシリテーター間のネットワークづくり を行う。

ね ら い

- つながりが作る豊かな家庭教育支援 を目指し、
- 地域で子育て家庭を支えることの大切さ について理解を深め、
- 地域の多様な支援者や組織等と つながりながら、
- 地域全体で家庭教育を支援する ネットワークづくりのあり方
& 今後の「親プロ」活動について考える。

つまり、研修が終わったときに「つながっている」か
今後「つながり」を作る条件が整っていること！！

自分たちの地域・グループの

今後のつながりと
ネットワークづくりについて
具体的なプランを策定し、

報告し合いましょう



全員参加の交流タイムを。
じっくりと話し合いたい。
できない理由・やる理由の整理が必要。

講師 自己紹介

- 元大学教授 武蔵大学・東京学芸大学非常勤講師
臨床心理士 教師教育者
- 2児のシングルマザー
- 専門は「子どもの養育環境と発達」
- 世界40か国の子どもの育ちを視察
- 日本全国で講演、ワークショップ多数
- FBで、だっことおんぶを語る会、教師教育学研究会、遊ぶ・学ぶ・育つ等管理人
- 2021春 Japan Action for Children's Environment
一般社団法人ジェイス設立予定 代表理事

自己紹介
やってきたこと
考えていること
&
手がけていること



五輪より
七輪で
ほんわか
温まろう

精神分析理論

対人援助職の
専門性開発

臨床心理学

子どもと
メディア

赤ちゃんの発達が危ない

予防

発達心理学

乳児発達

子育て支援者・保育士研修

教育心理学

子ども家庭福祉

子どもの権利

自転車CWA
高齢女性の
生涯学習モデル

ペダゴジー

遊ぶ
学ぶ
育つ

プレイワーカー養成
ユースワーカー養成

ソーシャルワーク

教師教育学
教員養成
教員研修
教師教育者の専門性開発

ソーシャルワーカー養成
コミュニティワーカー養成

実践と研究の往還 セルフスタディ

コミュニティワーク

1992 (30) - 2019 (57)

テーマ『子どもの養育環境』をどう創るか<心理・教育・福祉>



準備運動



- どうぞ条件が整えば、お付き合いください。
- ○×
- 拍手
- うなずき
- チャット記入
- ストレッチ
- ブレイクアウトセッション

アイスブレイク と ブレイクアウト

- 参加者の参加意識を高めるアイスブレイクを取り入れる。
- 実施の目的に合わせる。
- 全員が話せる人数にする（5人が限度）。
- 最後にこれからも連絡を取り合えるような声かけと工夫をする。

例えば

TAKOトーク しよう。

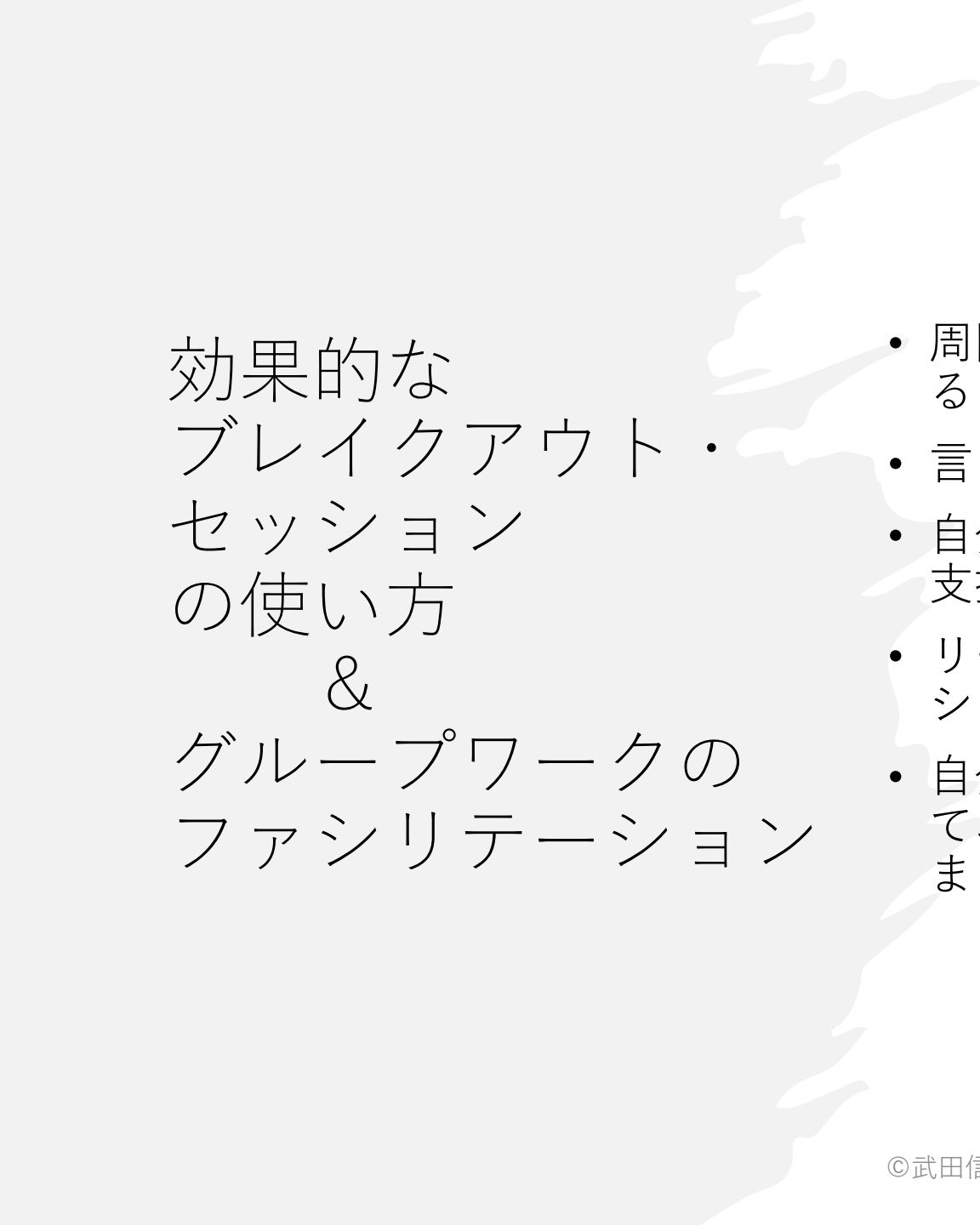


<https://enjoyworkshop.wixsite.com/oshienai-doutoku/blank-2>

コーディネーター：

場の風土を作る ファシリテーター

- 気持ちよく一緒にいてもらう
- 相手が気持ちよく話せる聴き方
ホワイトボードミーティング®
- 聞いてもらえる話し方
- 見られていることを意識する



効果的な
ブレイクアウト・
セッション
の使い方
&
グループワークの
ファシリテーション

- 周囲が静かであれば、ミュートを外してすぐに発言できるようにしましょう。
- 言いたいこと、聞きたいことはすぐに言ってOK.
- 自分で疑問や不安を発言してみることもや間違えることが、支援対象の気持ちを理解する上での学びになります。
- リーダーシップをとれる方は、サーバント・リーダーシップの練習をしましょう。
- 自分が参加しているときの気持ちやみんなの反応を覚えておいて、自分がファシリテーションするときに役立てましょう。

ブレイクアウトセッション (8分)

- 一人一分程度で、名前と所属、「ファシリテーターとしてやりたいこと」や「自分の子育て」について、何か一つ、みんなに聞いてもらいましょう。
- 周りの人に気をつけてもらうといいこと、ファシリテーションをする上で必要なことなど、気づいたことを話し合ってみましょう。

第2回の意見交流で継続検討となった課題

メモを用意。
資料に書き込み
しましょう

1 & 2. 支援対象家庭とつながる工夫の現状報告

赤ちゃん訪問や乳児検診等における情報提供の充実と成果の確認。

学校や保育所との連携の方策と具体的対応。

連携促進会議：幼保福祉・支援センター・児童センター・社協・社会教育課

新規参加者の獲得・誘導。

タブレットの貸出、公民館への集合などの声掛け活動

日常の声掛け。地域とのつながりの薄さ。

個人情報保護と情報発信の兼ね合い。

会議の時間帯の調整。

スマホの使い方やルール作り。DVD配布などの工夫。

3. 支援対象家庭とのつながり方に関する課題や悩み

支援が届きにくい家庭を見つけることの難しさ

- ・ 本当に必要としている人、悩んでいる人を探すのは難しい。←情報はどこに？
- ・ 転居家族・未就園児の把握とつながり方。
- ・ コロナ禍でどう支援を届けるか。

支援につなげることの難しさ

←システムはある？安心感や問題意識をどう作る？

- ・ 情報をシャットアウトしている家庭、町内会未加入、地域交流がない人、若い人。
アポを取っても会えない人、つながりを求めない人、経済的にしんどい人。
届けにくい人、新しい人、自分から来ない、来られない人。家庭事情のある家族。
- ・ つながるまでのタイムラグ
- ・ 家庭教育支援の必要性の伝え方・気づいてもらう方法

- 親子の居場所づくりの環境が整っていない。
- 身近に感じられない。説明ができない。
- 個人情報の扱い方。

子育て支援の認知度の低さ

- イクちゃんネットや行政の取り組みやサポートが知られていない。
- 同じ子育て世代の人としかつながっていない。
- ネット上の好みにある情報だけに偏っている。

4. 支援対象家庭とつながる工夫に関する提案

《他の部署との連携》

- ・ 関係各課の連携 民生委員との連携 行政とファシリテーター
- ・ 福祉部局の保健師との連携、相互情報提供が必要
- ・ ブックススタートや司書（声のかけ方の難しさ）

《周知の仕方の工夫》

- ・ 東広島市のようなアプリの開発 行政が制作する広報番組やHP
- ・ デジタルベースと紙ベースの併用
- ・ 口コミの活用 声かけ 人が待つ場所に掲示版ポスター
- ・ フェスティバルでPR

《その他》

- ・ 届きにくい家庭のタイプ別の対応
 - 届いているけれど参加しにくいのでは？という視点。
- ・ 全家庭に広げていけば、届いていくのでは？
- ・ 親子で出向ける場で、親対象の子育て相談を。
- ・ 横のつながりを固める。
- ・ 総合窓口の設置。
- ・ 些細なきっかけ⇒つながりへ
- ・ 商業施設での実施実績から不安解消
- ・ オンライン講座 時間帯の工夫（対象に合わせた設定）
- ・ いつでもオープンな体制

ブレイクアウト・ セッション

- 自分たちの地域・グループでは、これからどういう形でつながりをつくっていくか。
- 誰が誰とどうつながるか。
- 具体的行動
- スケジュール（今できることと後でやろうと思うことの整理）
- 促進要因（できる条件）と阻害要因（できない理由）は何か。

⇒ 報告

ストレッチと休憩

本日の目的

- 家庭教育支援にかかる講義や演習を通して「親の力を学び合う学習プログラム」のファシリテーターとして
 - ① 家庭教育に関する知識を深め、
 - ② 講座を進行する技術や資質の向上を図り、
 - ③ 活動への意欲を高めるとともに、
 - ④ 情報交流を通じて、
 - ⑤ ファシリテーター間のネットワークづくりを行う。

家庭教育に関する
知識



現代日本社会の生活のしづらさ

西欧よりも急激な変化 資本主義社会 急速な開発 人間の疎外

- 自然環境 衣食住 月火水木金土
- 家族環境・親類関係・地縁関係 孤立
- 地域環境 遊び場の消失
- 地域社会 疎遠・崩壊
- 学校社会 競争
- なりわい ブルシットジョブ

cf. 『社会で子どもを育てる』 平凡社新書

【価値観】 子どもの人権 < 大人の産業

Wellbeing = 高収入・高学歴・高外見？

大人も子どもも
自然な発達、
生きる力の獲得が
難しい現代社会

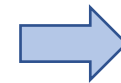
- 知らないことは簡単なことでもできない。
- 自然にできていたことは、説明できない。
- かつてやる必要のなかったことが、要求されている。
- どうしていいかわからないが、責任が追及される。
- 必死で対応するが、逆効果。
- 少数の大人での対応の限界



マルチリートメント状況の
多発

- 子どもの育ちは環境の影響を受ける
- 自分は子どもの育ちに関わっている
- 育てた人が問われる。まるで成績評価のように比較する、される。
- できる限り、人よりいい点数を取りたい。
- 自己肯定のために、ほめてもらわないと不安。
- 失敗できない。
- 子育てや教育の成果は、子どもの進学や就職、豊かな生活で評価される。

子どもを
良く
育てたい



育てなければ
ならない

子どもにかかるプレッシャー

- 発達させてもらえない
- 体験させてもらえない
- できないのにやらされる
- やりたいことは否定される
- 拒否できない
- 欲求過多

他者より「いい子」であることを要求される

学力をあげること
思考力を身に着けること
きちっとすること
学校に入ること
就職すること
スポーツができること

無理でしょ！

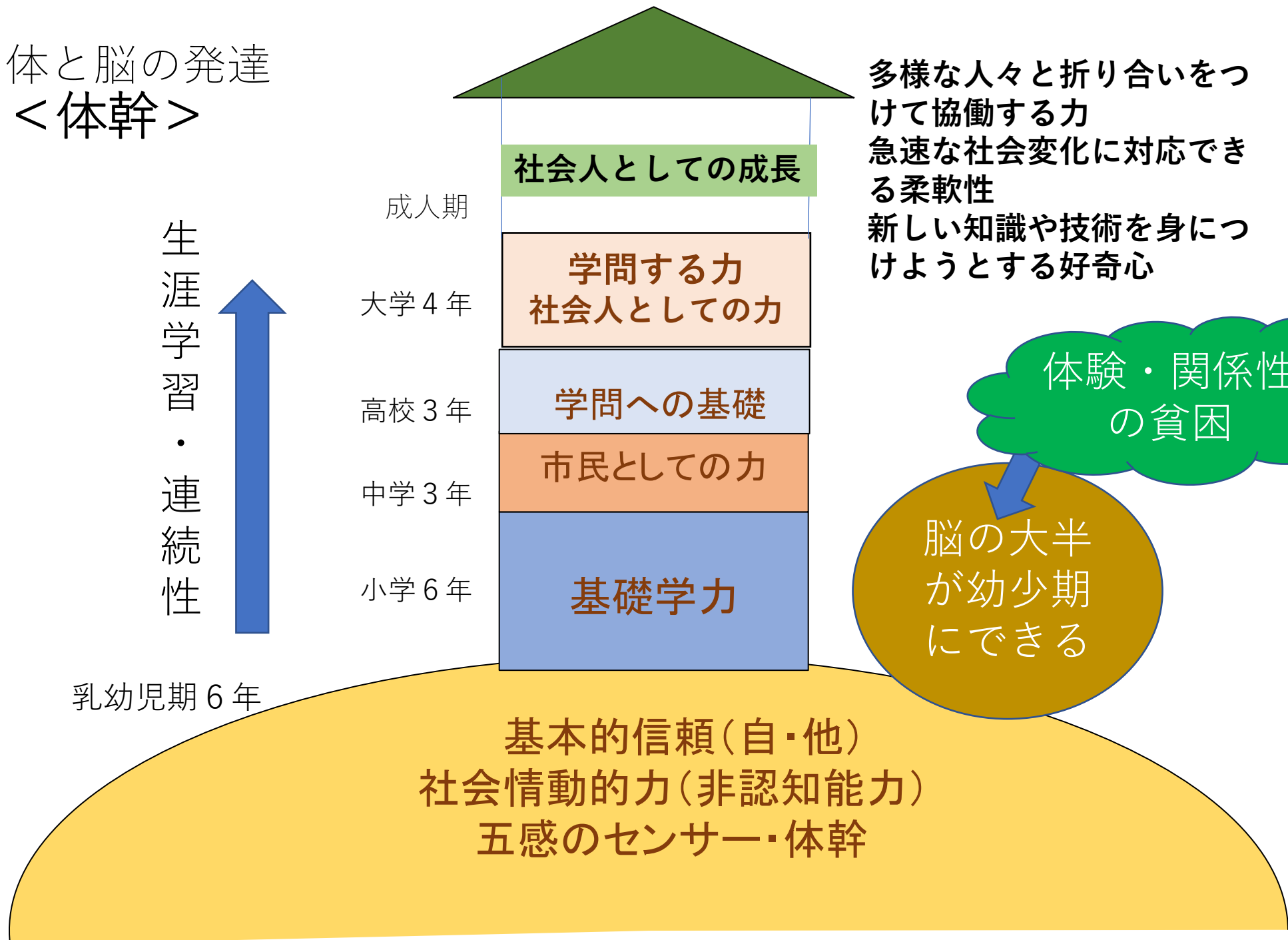


ひきこもり、うつ、精神障害、自殺
社会的自殺（非行・犯罪）



人はどう育ち、どう力を獲得していくか。

心と体と脳の発達 <体幹>



支援者として気をつけること

- 「私生活への介入」にならず、エンパワーになる支援のありかた。
信頼貯金をためておく。心の窓を探す。
- 何に困っているか整理できない親への支援
何に困っているか整理できない親の話を聞けない自分を認識すること。
しっかりと最後まで話を聞く
聞く技術、伝える技術を身につける。
- 大人になってから自己肯定感を高めるにはどうしたらいいか？
「誰かと一緒に、誰かをモデルに、得意なことを」安全に、
できるという体験を一つずつ増やしていく。フォローが必要かもしれない。
植松努さん「どうせ無理⇒だったらこうしてみたら？」
<https://tedxsapporo.com/talk/hope-invites/>

ありがとうございました。

Beaver62826@gmail.com

Facebookやnote でフォローしてください。